

## 論文審査結果の要旨

本論文については、博士論文公開審査会（令和元年8月9日、於文学部会議室）において内容説明がなされ、その後質疑応答が行われた。公開審査会で提出された主な論点は、以下のとおりである。

- ①意味を理解することが困難な詞の性格について
- ②『花草新編』と『花草粹編』の序文の関係について
- ③『花草新編』の素材となった別集の利用形態について
- ④分類編次詞選集と分調編次詞選集の編集意図について
- ⑤南曲における入声韻のあり方について
- ⑥朗誦と歌唱の相違について
- ⑦「南北合套」の実態について

以上の論点について、質疑を行い、基本的に適切な認識を有していることが確認された。

本論文は、詞というジャンルを歌唱の面からとらえ直した上で、明代における詞選集の刊行要因、更には実演の場における受容の実態を明らかにしたものである。明代において詞がどのように受容され、唱われていたかという点は、中国文学研究における重大な問題であるにもかかわらず、これまでこの問題に正面から取り組む研究はなかった。これは、音楽という後に残らないものを対象とする関係上、実証が極めて困難であり、研究自体不可能であるという認識があったためである。本論文は、大量の資料を博捜することにより、この問題を的確に分析し、説得力ある結論を得たものとして、高い価値を有する。その内容は完全なオリジナリティを持ち、中国文学研究において大きな意義を持つものと認められる。

その研究手法は、大量の資料を博捜しつつ、個々の作品については精密な校勘作業を行った上で分析を加えるという手堅く実証的なものであり、実証困難とされてきた問題について、多数の傍証を示すことにより、確実といえる段階まで解明を進めていることは高く評価される。また文学作品のみに限定されることなく、当時の社会的状況や思想的潮流を踏まえて議論を展開し、最終的には詞の歌唱という問題を当時の社会の中に位置づけると同時に、この問題から社会の状況を逆照射することに成功している点はすぐれた業績とあってよい。

以上のように、本論文は画期的な内容を持ち、研究史上極めて重要な意義を持つものであり、文学研究科の定める博士学位論文審査における評価基準を満たしているものと判断される。よって本委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに値することを認める。